

2023年度

CFP[®]試験

短期合格の秘訣！

TAC

このレジユメの著作権は、TAC株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネット上にアップロードする等の著作権を侵害する行為は法律によって禁止されております。

CFP[®]、CERTIFIED FINANCIAL PLANNER[®]、サーティファイド ファイナンシャル プランナー[®]は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB) の登録商標で、FPSB とのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO 法人日本FP 協会が商標の使用を認めています。

I. CFP試験を知る

(1) 日程

CFP試験は、毎年2回（6月と11月の第2・第3日曜日）に実施されます。
AFP試験（2級FP技能検定）とは異なり、2日間にわたる6分野の課目別試験で、課目ごとに合格が認められます。

第1日目:2023年6月11日(日)／11月12日(日)	
① 金融資産運用設計	9:30～11:30
② 不動産運用設計	12:30～14:30
③ ライフプランニング・リタイアメントプランニング	15:30～17:30
第2日目:2023年6月18日(日)／11月19日(日)	
④ リスクと保険	9:30～11:30
⑤ タックスプランニング	12:30～14:30
⑥ 相続・事業承継設計	15:30～17:30

※試験問題の法令基準日

2023年6月試験：2023年1月1日／2023年11月試験：2023年4月1日

※試験の実施日程等はご自身で試験実施団体ホームページまたは受験願書等でご確認ください。

(2) 試験形式

試験形式は各課目ともすべて四肢択一のマークシート方式。試験時間は2時間で各50問です。

(3) 合格率データ

2014年第1回試験から課目別合格ラインを公表しています。

■6課目全課目一括受験者の全課目合格率の推移

実施	2019年度 第1回	2019年度 第2回	2020年度 第2回	2021年度 第1回	2021年度 第2回	2022年度 第1回	2022年度 第2回
受験者数	223名	229名	662名	274名	221名	199名	154名
合格者数	10名	11名	63名	27名	22名	15名	7名
合格率	4.5%	4.8%	9.5%	9.9%	10.0%	7.5%	4.5%

※2020年度第1回は中止。

■2022年度第2回試験 課目別合格率

	金融	不動産	ライフ	リスク	タックス	相続
受験者数	3,188名	2,522名	2,630名	3,301名	2,729名	2,817名
合格者数	1,000名	972名	968名	1,194名	1,001名	1,083名
合格率	31.4%	38.5%	36.8%	36.2%	36.7%	38.4%
合格ライン	26問	32問	26問	29問	33問	29問

(4) 試験の特徴 (2級・AFP試験との違い)

① 課目合格制

CFP試験は6課目の課目合格制を採用しており、各課目50問の出題となっています。問題数から判断しても、2級FP技能検定(AFP試験)に比べ、深い知識と応用力が必要と考えられます。単に暗記する学習は通用せず、実務で通用する知識や能力が問われます。

問題数が多く、出題範囲も広いため、満点を狙うのは困難といえます。合格するために必要な試験対策を効率的に行うことが重要です。なお、課目別試験といっても、2級の試験と比べて各分野間の線引きがはっきりしておらず、複数の分野にまたがるような問題が多いのもCFP試験の特徴です。2級の試験とは異なる攻略法を意識しておく必要があります。

② 実務的な出題が多い

AFP試験の出題形式は学科と実技にわかれ、学科(四択)で基本用語や数字の正誤問題を出題して知識の確認を行い、実技(記述)では計算問題が中心というすみ分けが行われていました。

一方、CFP試験は全てマークシート方式による四択問題の形式となっています。その中で複雑な計算や膨大な資料の読み取り問題も出題されます。単に公式や数字を覚えていれば解けるという内容ではなく、実務で実際に扱うような事案について数式等を駆使して処理する問題が多数出題されています。

また、文章の正誤問題についても、制度の概要を問うような内容ではなく、詳細な特例まで含めたアドバイスを適切に行えるかを問う難易度の高い問題が出題されています。

CFPは取得すればプロとして通用する力を身につけられるチャレンジする価値の高い資格といえます。

II. 短期合格の秘訣

(1) 2級・AFP知識の復習

問題の質・量とも2級(AFP)試験を上回るCFP試験ですが、当然のことながら2級で学習した知識が基礎となります。問題の中には2級の知識をしっかりと習得していれば十分対応できる問題もあり、他の受験生との競争を考えると、基本的な論点を取りこぼしてはいけません。また、基礎がしっかりしていないと難易度の高い応用問題に対応することはできません。早い段階で基本論点(2級レベル→CFP基礎レベル)を確実に習得し、より高いレベルの論点まで理解度を上げていきましょう。

2級合格から時間が経過している方は、税金や社会保険などの制度改正について、最新の情報を必ず確認してください。

(2) 的確な出題分析と対応

① 問題文のポイントをつかむ

2級の試験と比較して、CFPの問題は設例・選択肢ともに長文になる傾向があります。全ての情報を、限られた時間内で精読してから解答する時間の確保は困難です。問題文から読み取るべきキーワードや正誤に影響しやすい文章パターンを迅速につかみ取る技術が必要です。

② 出題傾向を知る

法令や制度について特例的な(場合によっては実務上もまれな)細かい内容を問われることもありますが、多岐にわたる特例や時限的な経過措置などを全て把握しておくことは不可能です。対策として、出題の可能性が高い論点を的確に選び出し、準備しておく必要があります。

③ 実務的な出題への対策

試験では単に公式や条文をおぼえているかどうかを問うのではなく、その知識を実務においてどのように使いこなせるかが問われます。制度の背景までの理解や周辺分野との関わり合いを知っておくことも有効です。

④ タイムマネジメントが必要

2時間で50問を解答する試験です。解答の記入を見直す時間なども考えておくと、平均して1問あたり2分程度で解答しなければなりません。時間が足らず50問すべて解答できないということがないように、普段から解答時間を意識して問題を解くトレーニングも大切です。

Ⅲ. 効率的な学習方法

(1) 何課目ずつ学習するか？ おすすめは？

C F P試験は年2回行われます。課目ごとに申し込むため、自分の学習ペースに合わせて受験課目を選択することが可能です。1回に3課目ずつ受験する、あるいは2課目ずつ・・・など、皆様のそれぞれの事情に合わせたチャレンジ方法があります。

プランA・・・6課目一括受験する。(すべて合格すれば1回の試験、半年で資格取得)
プランB・・・3課目ずつ受験する。(すべて合格すれば2回の試験、1年で資格取得)
プランC・・・2課目ずつ受験する。(すべて合格すれば3回の試験、1年半で資格取得)
プランD・・・1課目ずつ受験する。(すべて合格すれば6回の試験、3年で資格取得)

このうち、もっともお勧めしたいのは「プランA」の6課目一括受験です。はじめは学習量が多くてきつく感じるかもしれませんが、うまくいけば一発合格して短時間で資格を取得できます。また、不合格となった課目も次回の試験では2回転目の学習になり、余裕を持って学習を進められるため、2回の受験で全課目合格できる可能性が高まります。

C F Pの問題は複数の課目にまたがった問題も多く、同時に多くの課目を攻略する学習法が効率的です。そうすることで1課目ずつ攻略していくよりも理解が進みやすく、省力化につながるケースが多いようです。1課目ずつ受験していくプランでは1回ごとの負担は少なくなりますが、長期にわたりモチベーションを維持するのが大変なうえに、習得した知識を途中で忘れてしまうデメリットも発生します。上述のとおり、C F Pでは他課目の知識を活用する問題も多いだけに、忘れてしまったポイントが他の課目を解く際のネックとなるリスクも高まります。

「できる範囲で1回になるべく多くの課目を受講する」これが合格への近道です。

(2) まずは「タックスプランニング」を攻略！

学習を始めるにあたって、6課目の中でも特に「タックスプランニング」には力を入れて取り組むことをお勧めします。他の課目でも税にかかわる問題が多く出題されるため、「タックスプランニング」を早めによりしっかり習得しておくことは大きなアドバンテージとなります。税法は毎年改正されるため、改正点も重要なポイントです。

(3) 各課目の頻出論点をチェック！

■金融資産運用設計

景気指標（資料・統計）、積立型金融商品、財務指標、債券価格、トータルリターン、証券税制、外貨建商品、先物取引、オプション、標準偏差、金融サービス提供法

■不動産運用設計

不動産投資の損益計算、不動産事業計画、抵当権、借地権・借家権、区分所有法、不動産取得税、固定資産税、譲渡所得の特例、固定資産の交換特例、立体買換え特例、最近の不動産統計

■ライフ・リタイア

関連業法の遵守、キャッシュフロー表、係数計算、健康保険の計算、雇用保険の計算、国民年金・厚生年金の計算、私的年金の計算、公正証書遺言、任意後見制度

■リスクと保険

生命保険の商品、生命保険の契約、所得税・相続税・贈与税、自動車保険、火災保険、地震保険、賠償責任保険、企業保険、保険証券、保険約款、保険の比較、法人の経理処理

■タックスプランニング

所得税（各種所得、損益通算、総所得、所得控除、税額控除）、法人税、事業税、住民税、消費税、財務分析

■相続・事業承継設計

相続分（民法・相続税法）、寄与分、特別受益、遺留分、相続税の計算（課税価格、総額）、相続対策、贈与税の計算（暦年、相続時精算課税）、財産評価（宅地、家屋、自社株式）

(4) T A C の C F P 講座をフル活用する！

T A C の C F P 講座は、試験を徹底的に分析し、テキスト・問題集を作成しています。C F P の学習に必要なエッセンスはすべて盛り込まれています。

また、教室講座、通信講座とそれぞれ講師が異なる場合がありますので、学習メディアを有効活用し、いろいろなアプローチの方法、テクニックを身につけていきましょう。

(5) 徹底的に問題を解く！

問題数が多くスピードを要求される C F P 試験を突破する力を身につけるには、T A C の問題集を何度も繰り返して解くことが大切です。また、時間がかかりそうな問題を飛ばして、あとで余った時間に対応するなど試験独特のテクニックも問題を繰り返し解く中で身につけてください。経験した問題数が増えるごとに合格へ近づきます。

★本試験出題例(2級とCFPの比較)

●2級(AFP)の問題

篤志さんは下記<資料>のKM銀行の外貨定期預金キャンペーンに関心を持っている。この外貨定期預金について、満期時の外貨ベースの元利合計額を円転した金額として、正しいものはどれか。

<資料>

- ・預入額 10,000米ドル
- ・預入期間 1ヵ月
- ・預金金利 6.0%(年率)
- ・為替レート(1米ドル)

	TTS	TTM(仲値)	TTB
満期時	112.00円	111.00円	110.00円

※利息の計算に際しては、預入期間は日割りではなく月単位で計算すること。

※為替差益・為替差損に対する税金については考慮しないこと。

※利息に対しては、米ドル建ての利息額の20%(復興特別所得税は考慮しない)相当額が所得税・住民税として源泉徴収されるものとする。

※計算過程において、小数点以下の端数が発生した場合は、小数点以下第3位を四捨五入すること。

1. 1,152,800円
2. 1,124,480円
3. 1,105,500円
4. 1,104,400円

正解 4

出典：2022年5月FP2級実技試験
(資産設計提案業務)

問題 29

●CFPの問題

露木さんは、取引のあるPN証券の特定口座（源泉徴収選択口座）で、南アフリカランド建てMMFから30万南アフリカランドを引き出し、外貨決済で以下の既発南アフリカランド建てゼロクーポン債券を、購入できる最大額面分を購入した。4年後、この債券を売却したところ、外貨ベースでの年1回複利利回り（税引前）が10.0%となった。為替レートが下表のとおりであった場合、この債券に係る譲渡所得の金額として、正しいものはどれか。

<南アフリカランド建てゼロクーポン債券の明細>

発行体：WH輸出信用銀行

格付け：AAA、Aaa

利回り（現地通貨ベース）：年8.25%（税引前・複利）

期間：約20年

購入価格：額面金額の20.50%

売買単位：額面30万南アフリカランド以上、額面10万南アフリカランド単位

<為替レート>

MMF購入時	MMF解約時および ゼロクーポン債券購入時	ゼロクーポン債券売却時
1南アフリカランド =7.00円	1南アフリカランド =7.50円	1南アフリカランド =8.00円

<計算に際しての留意点>

- ・この債券の購入は南アフリカランドで行い、売却金は売却時に直ちに円転するものとする。
- ・この債券は特定公社債に該当し、外国での源泉徴収は行われない。
- ・金額の計算については、南アフリカランドは、計算過程は小数点以下第5位を四捨五入、計算結果は小数点以下第3位を四捨五入し、円は計算過程、計算結果とも円未満を切り捨てること。
- ・利回りの計算については、計算過程、計算結果とも小数点以下第5位を四捨五入すること。
- ・税金、為替手数料、その他記載のない事項は考慮しないものとする。

1. 1,209,073円
2. 1,263,840円
3. 1,352,573円
4. 1,413,840円

正解 1

出典：CFP資格審査試験（2022年度第1回）
日本FP協会
「金融資産運用設計」問題38



TAC